

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	外来管理治療棟	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	316人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,650時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2016年6月1日
敷地面積	135,569 m ²	作成者	山本 啓
建築面積	2,924 m ²	確認日	2016年6月1日
延床面積	6,965 m ²	確認者	岸場 正時



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外の 97%
④上記+ 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>京都府病院は患者療養環境の向上を計り、最新の医療機能に対応できるような設計とした。環境性能向上を主眼に置き、外壁・屋根の断熱強化、複層ガラス、すべてLED照明を採用した。</p> <p>外観は清潔感あふれる色彩計画、インテリアは落ち着いた色調のある室内環境とし、患者の視点に立った設計としている。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>エントランスの待合ホールは、自然採光により明るく開放的な空間・植栽を鑑賞できる落ち着いた空間とした。外來待合・廊下は、十分な幅員・面積を確保することで、患者が利用しやすい計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>患者のプライバシーに配慮した医療動線とした。また、各室は診療環境に十分なスペースを確保した。内装の床材はノンワックス仕様とし、清掃性・メンテナンス性能を向上させた。壁クロスは、表面強化の機能も併せ</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地形状の高低差を有効に活用した建物配置・外構計画とした。駐車場にはできる限りの植栽を計画することで潤いある計画を演出した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>高効率機器の採用を行い、複層ガラス・外皮断熱強化を行っている。</p> <p>屋上には太陽光パネルを設け、再生可能エネルギーの導入を図った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>納入する建築資材については積極的にリサイクル品を採用し、資源の再利用率を高めた。節水形便器・擬音装置の採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>屋上の空調室外機置場は、東西に配置することで、一か所当たりのボリュームを分散した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される